

第3 1回調整力の細分化及び広域調達の技術的検討に関する作業会 議事要旨

日時：2020年10月21日（水）15:00～15:30

場所：Web開催

出席者：

大山 力 主査（横浜国立大学大学院 工学研究院 教授）
辻 隆男 主査代理（横浜国立大学大学院 工学研究院 准教授）
加藤 浩二 委員（東京電力パワーグリッド（株） 系統運用部 広域給電グループ マネージャー）
園田 光寛 委員（中部電力パワーグリッド（株） 系統運用部 給電計画グループ 課長）
黒井 浩二 委員（関西電力送配電（株） 系統運用部 給電計画グループ チーフマネージャー）

オブザーバー：

伊藤 優理 氏（経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 電力基盤整備課 電力供給室 室長補佐）

配布資料

（資料1）議事次第

（資料2）需給調整市場における高圧以上の逆潮流アグリゲーションの参入について

議題1：需給調整市場における高圧以上の逆潮流アグリゲーションの参入について

・事務局より資料2について、説明を行った後、議論を行った。

[主な議論]

（辻主査代理）22 ページ、ポジアグリへの指令の発信方法を説明いただいたが、指令方法には実出力値と出力変化量の2種類があり、出力変化量で進めることに異論はない。事業者ニーズも踏まえて必要であれば実出力値による指令も検討していくことを記載しており、実出力値にする場合には中給システムの大幅な改修が必要になると注記いただいているが、実出力値にした場合の利点はどのようなものかを確認したい。

→（事務局）実際にこういったニーズが事業者から出てくるのか分かりかねるが、事業者は恐らく様々なリソースを束ねることが想定される場所、例えば10MWという変化量の指令を出し、それをアグリゲーターが受けて契約しているリソースに変化量を配分する方がコントロールし易いと推察するので、まず出力変化量での指令のニーズの方が多いと考えている。束ねているリソースによるが、仮に電源を2種類だけという形で束ねている場合は、そのリソースの出力値をアグリゲーターが常に把握しつつ出力をコントロールするシステムを持っているのであれば、実出力値による指令を要望されることもあり得ると考えている。実際にそういったニーズがあれば中給側のシステムの改修も検討いただくことにはどうかと考えている。

（辻主査代理）基本的にはアグリゲーターがやることとして出力変化量を上手く融通して捌くということがあると考えてるので、出力変化量で指令して後はお任せという位置づけというのは自然な

流れだとは考えるが、今の説明についてよく分かった。一般送配電事業者から見たときの制御という意味で言えば基本的には大きな差はないと考えてよいのか。

- (事務局) 一般送配電事業者としては、抱えているリソースのスピードがどういったものになるのか、現在出力値がどこにあるかなどを把握する必要があるため、こうした実出力値による指令を出すためには、システム的大幅改修が必要だと考えている。一般送配電事業者としても出力変化量で指令を出す方がやり易い面もあると思う。
- (一般送配電メンバー) ご認識のとおり、ポジアグリしたものを1つの発電機と見立て中給システムで認識させるということが必要となり、資料に記載されているのは変化速度だけだが、それ以外にも発電機の並列台数や並列ユニットによって、ポジアグリの定格出力や最低出力も変わってくる。もし、実出力で指令を出す場合には普通の発電機であれば最低出力と定格出力は固定だが、そういった情報をアグリゲーションコーディネーターからいただき、最低出力と定格出力、変化速度も自動で可変して1つの発電機のように認識させることが必要なので大規模な改修となる。頻繁に変更されるとメリットオーダーにも影響が出てくる。
- (辻主査代理) システム上、色々な大幅な改修が必要になる点はよく分かっているが、そういったものがあるうえで仕上がりという意味で言えば基本的には大きな差にはならないかと考えての確認であった。理解した。

(辻主査代理) もう1点、スケジュールに関して、システム改修に時間を要するので2023年4月から運用開始を目指してはどうかとあるが、この期間というのは精算システム構築等の詳細が分かっていないので、安全に考えて長めに見ている期間としているのか、その辺のイメージの補足をいただきたい。

- (事務局) システム改修については、これまでも制度設計が出来てからおよそ2年間ということで進めてきており、標準期間ということで2年間を設定している。今回のシステムについても、一般送配電事業者を確認したところでは2年間で改修し、2023年から対応をできる見込みと聞いている。
- (辻主査代理) いつも改修するときの標準的な工程ということで理解した。

(辻主査代理) 基本的には、三次①②の大枠の要件のなかで、ポジとネガポジの混在をどういう風に組み込むかということについて、基本的には事務局の提案通りだと考える。大きな問題があるようには感じないが、今後先ほどの実出力値による指令の話のように、いろいろと問題が出てくれば、その都度議論するということはあるとは考えている。

以上